

ギモン 02 変化しているつくば市。今だけじゃなく、未来のことも考えているんだよね？

今は人口が増えていても、いつかは減っていくって聞いたよ。本当なの？

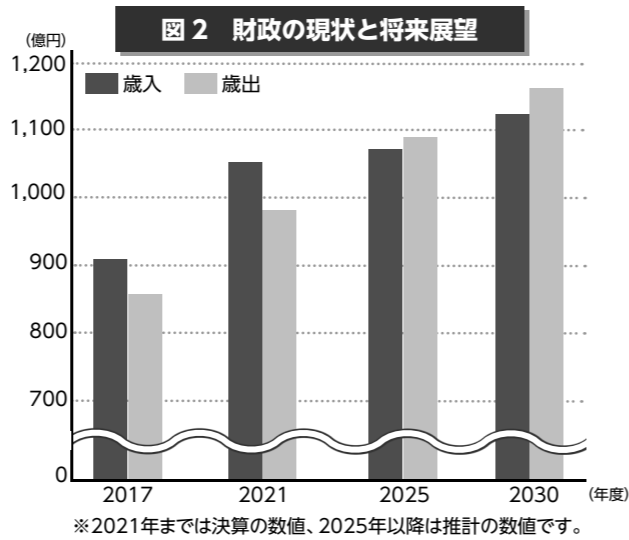
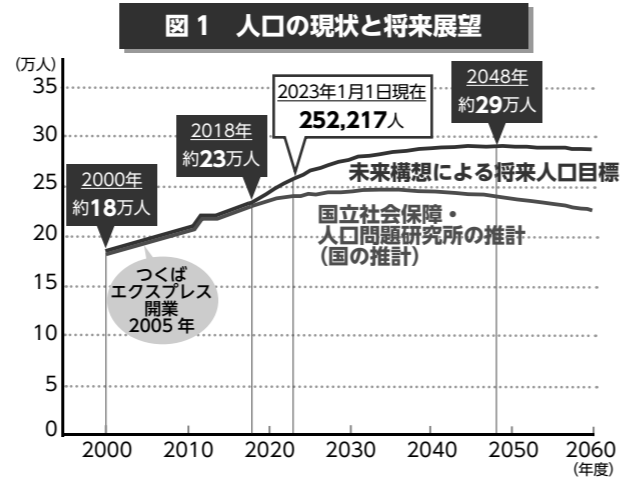
本当なんです。右の図1をご覧ください。現在順調に増え続けている市の人口ですが、国の推計では2030年代をピークに徐々に減少していく結果が出ています。一方、『つくば市未来構想』の人口ビジョンでは、人口減少に効果的な施策を行い、人口のピークを遅らせ、その高さを大きくし、かつ水準を高く維持していくことで、**2048年に人口約29万人となる将来展望を描いています。**

人口の変化によって、市の財政の現状はどうなっていくの？

右の図2をご覧ください。直近では、人口の増加に伴い個人市民税や固定資産税が増加しています。今後は、歳出が歳入を上回る事態が予想されるため、歳出を抑えながらも、いかに歳入を増やしていくかが大事になってきます。将来人口の増減と財政状況を見据えながら、持続可能なまちを実現するために何が必要かを考えているんですよ。

まちの変化に対応するため、今後はどうしていくの？

前ページで紹介した『つくば市未来構想』、『つくば市戦略プラン』の取り組みを進めるなど、まちの未来を見据え、現状の変化にもしっかりと対応しながら、着実に市政に取り組んでいきます。これからもつくば市のまちづくりの理念「つながりを力に未来をつくる」のもと、市民の皆さん一人一人が生き生きと幸せに暮らしていけるまちを、市民の皆さんとともに創っていきこうと思っています。皆さんのお力添え、ご協力をお願いします！



アンケートへのご協力をお願いします。

今後の発行の参考とさせていただきますので、『もっと知りたい!つくば市かわら版 第18号』をお読みになった感想などをお寄せください(各号ごとのアンケートとなります)。

※個別の質問にお答えすることはできません。

パソコン スマホ

でつくば市かわら版をいつでもどこでも!

市ホームページ マチイロ YouTube

一緒にまちの変化を知っていきこうフク!

もっと知りたい!

つくば市 ばん

かわら版

2023年2月15日

皆さんのギモンに市長が答えます

つくば市長 五十嵐立青

問 広報戦略課

今回のテーマ まちの変化のこと、もっと知りたい!

1 気になるニュースを見つけたフク! 「つくば市の人口25万人突破!」

2 人口が増えると... まちも変わるフク? 人口増? 今の状況は? どれからは? でもどんな風が変わっていくのかわからないフク...

3 市長! 今のつくば市と未来について教えてフク!

4 フク!? もちろんだよフックン船長!

5 人口が増えている市の現状とまちの変化、これからの未来について詳しく説明するよ! この木の正体はP2~4で分かるよ!

えっ...その木は何フク~!?

ギモン 01 つくば市の人口について、今の状況を教えて!

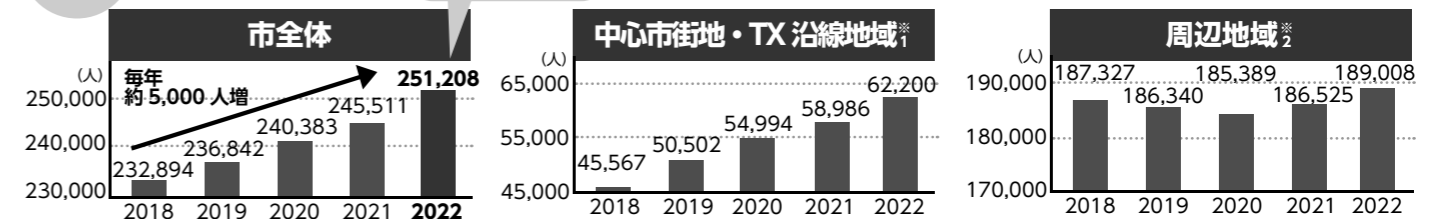
人口が増えている理由は? 増えていくことで問題はないの?

人口増の理由としては、主に**つくば駅周辺(中心市街地)の公務員宿舎の廃止**や**つくばエクスプレス開業により新たに開発された地域(TX沿線地域)へ転入する若い世代や子育て世代が多い**ことが挙げられます。全国的にも人口が増えている自治体は珍しいですが、手放して喜んでいるわけではありません。例えば、児童生徒数が増えることで小・中学校の数が足りなくなったり、保育所などの待機児童数が増えたり、生活インフラの整備が必要となるなどの課題が出てきます。また、下のグラフのように**中心市街地・TX沿線地域と周辺地域では、人口の増え方に地域差があるという課題もあります**。市では、これらの課題に対応するため、つくば市の未来を見据えた『つくば市未来構想』および『つくば市戦略プラン』を策定し、さまざまな施策に取り組んでいます。次ページで詳しく解説しますね!



市の人口変化 25万人突破!

※人口は各々、10月1日時点の住民基本台帳人口



※1 中心市街地(吾妻1~3丁目、竹園1~2丁目、東新井、春日1丁目、天久保1丁目) TX沿線地域(中根・金田台地区、研究学園駅周辺、万博記念公園駅周辺、上河原崎・中西地区、みどりの駅周辺) ※2 上記※1以外の地域



『つくば市未来構想』の目指すまちの姿に基づいて『つくば市戦略プラン』で掲げている施策の一部を、数字で紹介していくよ！この木の実（施策）を、みんなで育てていきたいと思っているんだ！

I

魅力をみんなで創るまち

キモン: 周辺市街地の状況は？

周辺市街地活性化協議会が発足

現在8団体が活動しています
▶8つの周辺市街地(北条・小田・大曾根・吉沼・上郷・栄・谷田部・高見原)で、地元の方が主体となり、地域づくり活動に取り組む協議会が発足しています。

つくば R8 地域会議を開催

2019年からの延べ参加者数645人
▶周辺市街地活性化協議会など、周辺市街地で地域づくり活動に取り組む方々が活動報告などを行うつくば R8 地域会議を開催しています。



市公式 YouTube チャンネルでも紹介中!

「クラフトライフ」を推進

▶市公式Instagramでのクラフトライフや市の魅力に関する投稿(ストーリー)のシェア数
2021年4月~2022年12月
約5,500件



キモン: 地産地消の進み具合は？

地産地消の推進

▶市農産物を使用・販売している店舗数
2019年度41店舗
→2021年度153店舗
▶学校給食での市農産物の利用率
2018年度16.1%
→2021年度18.8%



▲つくば地産地消ポータルサイト「Farm to Table つくば」

2017年「つくばワイン・フルーツ酒特区」に認定

▶新規ワイナリー数
2017年度 0場→2022年度 3場



キモン: 寄付や市民活動の動きは？

アイラブつくばまちづくり寄付金(ふるさと納税)の増加

▶2017年度 51,475,193円(1,421件)
→2021年度 210,848,463円(11,250件)

「つくばSDGs パートナース」会員数

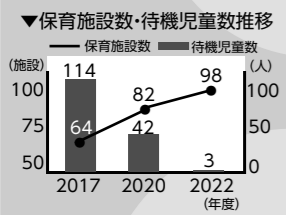
▶個人会員 2019年40人→現在441人
▶団体会員 2019年8団体→現在156団体

III

未来をつくる人が育つまち

キモン: 保育所や児童クラブの待機児童問題は？

保育施設を増設し、待機児童が減少



▶保育施設数
2017年64施設
→2022年4月 98施設
▶待機児童数
2017年4月114人
→2022年4月 3人

民間保育士への処遇改善を推進

▶民間保育士への月額3万円助成人数 2021年度 869人
家賃補助人数 2021年度 29人

児童クラブ設置箇所・定員の増加

▶2017年度 児童クラブ数32カ所(定員3,090人)
→2021年度 児童クラブ数83カ所(定員5,013人)



キモン: こどもたちの教育環境や支援体制は？

学校施設の整備や教育体制の充実を推進

▶新設校の設置
▷2017年から義務教育学校を3校開校(秀峰筑波、みどりの学園、学園の森)
▷現在新たに小学校4校、中学校2校を建設中
▶普通教室へのエアコン設置
2017年度30校→現在45校(設置率100%)
▶スクールカウンセラーの配置 2017年度12人→現在21人
▶スクールソーシャルワーカーの配置 2017年度0人→現在8人



つくばこどもの青い羽根基金の設置

▶2019年4月から設置し、寄付金を基に、こどもたちの食の支援や学習会などを実施しています。
2019~2021年度 寄付総額 38,454,226円
「みんなの食堂」設置数 現在8カ所
「青い羽根学習会」開催箇所数 現在16カ所
「居場所づくり支援事業(青い羽根のいえ)」実施箇所数 現在1カ所

II

誰もが自分らしく生きるまち



キモン: 交通の不便さ解消は？

つくバス・つくタク・つくチャリ

▶つくバスの路線数
2017年7路線→現在10路線
▶つくタクの共通・特例ポイント*数
2017年18カ所→現在29カ所
▶つくチャリの利用実績
2021年10月~2022年11月 21,190回



※共通ポイント▷どの地区からも移動できる乗降場所。特例ポイント▷出発地区と隣り合う地区の乗降場所。

実証実験を経て新たに運行開始

▶2019~2021年度の実証実験を経て筑波地区支線型バス「つくばね号」、つくバス荻崎シャトルが現在本格運行



キモン: 学校などの跡地利用は？

廃校・庁舎跡地などで利活用方針が決まった施設数

▶2020年4月 5施設→現在10施設 ※全15施設
主な利活用方針
筑波東中学校跡地▶筑波山地域ジオパーク中核拠点・自転車拠点
筑波西中学校跡地▶学校法人角川ドワンゴ学園S高等学校
菅間小学校跡地▶生活支援ロボットコンテストの実施場所
田水山小学校跡地▶文化芸術創造拠点
上郷高校跡地▶陸上競技場 など

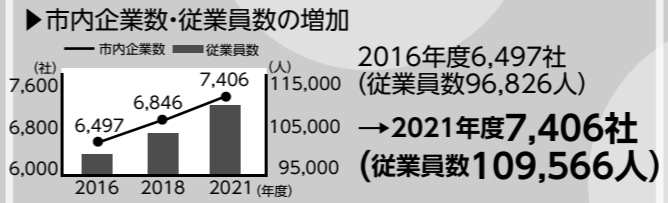
IV

市民のために科学技術を活かすまち



キモン: 雇用や経済の状況は？

市内企業の増加



工業団地への企業立地の増加

▶市内工業団地の企業立地数
2016年度162社→現在195社

スタートアップ企業を応援

▶市の支援により創業したつくば発スタートアップ新規創業数
2016年度0件→2021年度24件(累計)
▶つくば発スタートアップ資金調達額
2016~2020年度 年平均約6.3億円
→2021年度約8.6億円



キモン: つくばの科学技術を使った取り組みは？

科学技術の成果が社会に貢献

▶つくば Society 5.0社会実装トライアル支援事業を経て事業化した提案
2018年度1件→現在9件
▶つくばチャレンジ年間参加者数(延べ数)
2016年度1,689人→現在2,084人
▶オープンデータ公開数
2018年28件→現在350件



スーパーシティの実現に向けて

▶行政情報をいつでもどこでも誰でも使いやすく
つくばスマートシティアプリ「つくスマ」
現在累計12,020ダウンロード
▶インターネット投票
実証実験数 累計5回
2022年度は14,000人規模の模擬住民投票を実施



つくスマのダウンロードはこちらから▶

